

謹賀新年



社団法人
群馬県造園建設業協会

会長
清水 一也

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え皆様には穏やかな新年をお迎えのことと存じます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災及び福島原発事故は、世界を震撼させた事件でした。自然のなかでどう生きてゆくのかが、人間の尊厳を改めて突きつけられた一年であり、また経済面ではEUの混乱はいまだ解決の目途がたらず、国内外の景気の先行きに不安を感じる経済環境でした。

さて我々協会では、数年前より取り組んできた、法人改正の申請を昨年末にまとめ、本年4月より一般社団法人としてスタートする予定となりました。これはひとえに会員の皆様の応援と、担当したプロジェクト委員のお陰であり、感謝申し上げます。臨時総会で選出された新法人の役員各位には、新たなスタートと共に、今後の活動に大きな期待を託するものであります。

振り返りますと、昭和40年後半に県内の造園各社を組織化し誕生した、「群馬県造園建設業組合」はその後、「群馬県造園建設業協会」として組織拡充を図り、公益法人として昭和59年認可を受け、郷土の緑化に関わる各種事業に参加し、地域の社会貢献に努力してきました。昭和58年のあかぎ国体や、当協会主催で始まり、その後群馬県と共催で継続してきた、秋の都市緑化祭、そして平成2年の花の万博（大阪）などは、その後の花と緑の需要拡大に大きな役割を果たした事業でした。また平成10年の全国植樹祭・平成20年の全国都市緑化群馬フェア・その後の花と緑の群馬づくりキラキラフェスティバルなど、協会をあげて参加協力し、そこで培った経験と連携の輪は貴重な財産であり、今後も継承していきたいと考えています。

私達は、みどりの空間を創造する造園建設業者として、自然と人間のよりよい関係を結ぶ「絆」であることを理念とし、協会活動を通して、その技術を研鑽し、住みよい、住んでよかった、住み続けたい快適な空間づくりを目指していきましょう。

新年にあたり、高き志の帆をあげ、混迷の時代の波間を共に乗り切ろうではありませんか。協会員皆様の益々のご健勝を祈念しつつ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



群馬県知事

大澤 正明

群馬県造園建設業協会の皆さまにおかれましては、健康やかな新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災により、様々な分野において県民生活への深刻な影響がありました。本県においても、県民の皆様の安全・安心な生活の確保に尽力するとともに、被災された地域に対し様々な支援を行ってきており、一日も早く復興されることを願っております。

景気は、震災直後の状況から改善の動きが見られるものの、一方で歴史的な円高による影響も懸念されるところでございます。そうした中、県といたしましては、総合計画『はばたけ群馬プラン』に掲げる目標の実現に向けた施策を着実に実行するとともに、東日本大震災への対応を引き続きしっかりと行うため、積極的な取り組みを進めているところでございます。

昨年は、群馬県のさらなる飛躍、発展の年でもありました。3月には北関東自動車道が全線開通して、本県の高速交通網がすべて完成しました。また、7月から行われていた群馬デスティネーションキャンペーンでは、多くの皆様の本県を訪れて頂きまして、県内各地が賑わったところでございます。今後も、交通の優位性を最大限に活かし、今回のキャンペーンを契機として芽生えた気運を継続し、県民の皆様や市町村と共に連携しながら、本県の魅力を全国に向けて発信し続けていきたいと考えております。

さて、造園関係におきましては、良好な景観形成、緑化の推進や植栽の管理など、ゆとりある県民生活や環境保全のために必要不可欠であり、その重要性が再認識されているところであります。全国都市緑化ぐんまフェアの継承事業である『花と緑のぐんまづくり推進事業』を中心に、今後も、緑豊かで潤いあふれる県土づくりに努めていきたいと考えております。

結びに、『花と緑のぐんまづくり推進事業』のフェスティバルが、本年は前橋市で開催されます。市政120年の記念の年に、水と緑あふれる、県都前橋市から群馬の元気を発信して、魅力ある観光資源とともに美しい花と緑でたくさんの方々をおもてなしたいと考えております。造園関係の皆様にご協力をお願いするとともに、今後のご発展を祈念申し上げ新年のあいさつといたします。



群馬県議会議員

中沢 丈一

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は、特段のご支援ご協力賜り厚くお礼申し上げます。また、デスティネーションキャンペーンへのご協力に感謝申し上げます。今年も、はばたく県政進展のために全力で働いて参りますので相変わらずよろしく願いいたします。

さて、昨年3月11日東日本大地震により、多くの尊い命が犠牲となり、甚大な被害も発生しました。心よりご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。今、懸命に復旧・復興にむかっていますが、協会の皆様には、義援金、救援物資等提供いただき敬意と感謝を申し上げます。

また、原発事故により、風評によって観光地、農産物等多くの被害が出ました。その後、赤城大沼にも基準値以上のセシウムが確認され不安が広がっています。今後、再生エネルギーの開発と、絶対安全な『原発』への転換となっております。協会の皆様には、環境問題に積極的に取り組んでいただいています。今後、協会の理念において社会貢献いただきたくお願い致します。

陸前高田市の“奇跡の松”も津波（塩害）で保全が困難な状態にあります。関係者皆様に労い申し上げます。

今年の日本経済は、円高による産業の空洞化、TPP協議への参加により食料安全保障への懸念、EUの経済不安の影響等で、厳しい年になる様であります。群馬県においては、首都圏のバックアップ機能の誘致、上海へ県事務所を設置等、群馬を売り込んでまいりますので、ご協力お願い致します。

協会皆様のご健勝ご活躍をお祈り申し上げます。新年のあいさつと致します。



群馬県議会議員

久保田順一郎

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかなる新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年3月11日東日本大地震の甚大で悲惨な被害はもとより、多くの日本人には意識変革とその覚悟の必然性を喚起させる事になったと思います。また、戦後復興から先輩各位が築き上げてきた経済成長時代の様々な制度や社会構造など、誰もが資本主義社会の限界を感じ市場経済への懐疑的な思いに至ったかと思えます。まさにグローバル経済の大きなターニングポイントとなった年だったと言えましょう。

昨年の群馬デスティネーションキャンペーンの経済効果は80億円との報道がされました。協力を戴いた各自治体や業界団体の皆様のお陰と思えます。県外からの来客を迎える時、道路の植栽はその地域力を判断する格好の材料です。しかし、依然と国道中央分離帯のドウダンツツジはゴミ捨て場となっております。

11月に上海、成都、西安各市を回った時、どの市の道路沿線も緑は大変見事でした。もちろんゴミ一つ落ちていないわけで、裏通りに回ればそんなことはないと思ひ、しかし、かつてのゴミだらけの中国の印象は裏切られたわけでありました。とくに腰の曲がった老婆が道路の落ち葉1つ1つを手で拾っている姿を見た時、これは日本も見習うべき姿と強く考えさせられ、都市周辺の緑化木の畑の多さにも驚かされました。道路の緑は何処の国に行っても植栽事業と管理事業をもたらし、索漠とした都市で『みどり』自体が四季折々の日本文化を築いてきたわけでありました。成熟社会であるはずの日本が、今『日本人の心』を失いつつあります。本年も『みどり』を通じて皆様と共に歩んでいきたいと思ひます。

造園建設業協会の皆様にとって実り多い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

最後に、皆様のご指導とご鞭撻を引き続きお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。



群馬県議会議員

橋爪 洋介

謹んで輝かしい年の幕開けをお慶び申し上げます。

昨年は未曾有の東日本大地震という激甚災害に見舞われ、低迷を続ける政治、経済に大きな影響を及ぼしました。一方で、家族や地域など失われかけていた「絆」を見直すきっかけになったことも事実であります。また、震災直後、燃料等物資不足の中での選挙にもかかわらず、多大なるご支持ご声援賜りましたことに心より感謝申し上げます。

昨夏、被災地女川町に入りましたが、テレビを通じて観る印象とは少し異なりました。典型的な東北地方の美しく静かな漁港は全てが流されて、燃え尽くされて灰燼に帰した。電気もなく唯、闇夜の中で押し寄せる津波の音だけが不気味に人々の気持ちを不安に陥れている。住民にとっては長い夜であったと思う。しかし、私が訪れた時には、人々は不安以上に今を、将来を「なんとかしなければ」という不屈の精神が溢れていたような気がします。被災を逃れた小学校の教室からは子ども達の元気な歌声が響き渡り、支援や見舞い、ボランティアで来ていた人達を逆に奮い立たせていたようであります。この子ども達にはハンデなく育ててもらいたい！という気持ちが自然に湧き立ちました。

私は会社員時代に二年間、広島市で仕事をしておりました。ご承知の通り、世界で初めて原爆が投下され、一瞬にして街は消滅しましたが、数日後には、復興の兆しがありました。そして、戦後六十五年余の現在では、「緑豊かな街並み」が「復興の証」として広がっています。街が消えても、人々の精神の灯が消えない限り、街は必ず蘇るものです。そこには常に様々な成長が伴います。街を覆い尽くす「緑」は成長や平和の「証」であります。皆様のお仕事の益々の社会貢献とご発展をご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

